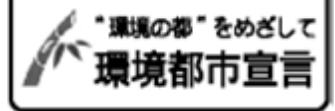


# 環境の都ニュース

2014. 9. 1 NO. 77



発行：長岡京市  
環境の都づくり会議  
発行責任者：江川 宗治  
編集担当者：山本 雅夫

“長岡京竹あそび2014”は10月11日(土)に開催されます！

— 竹でつなぐ・つながる・まちづくり — 市民主導の催し、6回目を迎えました

『長岡京竹あそび』は、市内の放置竹林整備団体が中核となって、社会福祉・子育て支援等のボランティア団体、企業・商店、諸団体、行政との協働により、連絡協議会を結成して運営し、市民と一体となって夜は竹林の“幽玄の竹灯り”をメインに、昼間はグランドいっぱい竹の遊具等での遊びや各種催しを楽しむイベントです。

会場は、長岡天満宮～長岡公園一带(メイン会場は長岡公園グランド)で、例年数千人を超える大勢の来場者があり、大変賑わい、近年では他府県からの団体見学や、情報入手に来られる方々も増えてきています。参加団体は昨年実績58団体です。

日頃市民の皆さんが目にもされる機会が少ない『放置竹林整備に取り組む市民団体の活動』をご理解していただく契機にすることを願ってスタートした催しですが、“竹のまち長岡京”のよさをアピールし、秋の風物詩として親しまれるイベント《楽しい竹祭り》を目指しています。

6回目を迎える本年も、団体や個人毎に主体的な竹あかりを竹林の中や通路等に企画し、オリジナルな思い思いの竹あかりを灯していただく予定です。昨年大好評だった“竹リンピック”をはじめ、竹にまつわる各種あそび、竹工作、なるこ踊り、紙芝居や出前チンドンなどの各種パフォーマンス、味自慢の飲食ブース等に、新しい企画も加わり、子どもから大人まで秋の一日を楽しめる市民参加型の“竹のお祭り”です。

今年もキャッチフレーズ“みんなであそぼ このゆびと～まれ！”で盛り上げましょう！ご参加、ご支援を頂戴しますよう、宜しくお願い申し上げます。

2014年9月1日

長岡京竹あそび連絡協議会代表 江川宗治(長岡京市環境の都づくり会議代表)

長岡京竹あそび2014のホームページは <http://www.takeasobi.net> です。是非ご覧ください。



竹あかりによる五山送り火の舟形(2013年)



## 平成26年度第2回西山ファミリ一環境探検隊報告

7月27日(日)9時~12時、西山森林整備推進協議会主催

参加者46名(公募参加者親子22名、京都府立大学森林ボランティアサークル「森なかま」13名、市役所(西山森林整備推進協議会)2名、環境の都づくり会議4名(古澤、柳沼、加藤、中田)里山再生市民フォーラム3名、ゲスト2名。

数日間、猛暑続きで前日の京都の日中最高気温は38.3度を記録、当日は予報より早く、午前中に雨が降ってきたこともあり、気温は25度ぐらいで暑さの心配はなくなりました。しかし半分くらい雨の中でした。テントの中でうちわづくりと紙芝居を見せてもらいました。森なかまさんの企画、実施です。1)竹うちわづくり:真竹で骨を、

表面は和紙です。真竹を割って、10本ぐらいの骨に整形します。学生さんが新工夫の整形用の溝を彫った板を用意してくれていました。これに骨をはめて、バーナーで熱処理して曲げます。短時間でできるよう随分工夫されていたり、半分加工されていたので、小さい子たちも指導を受けてうまくできました。できたうちわを皆に見てもらいました。

2)紙芝居:ある日、家の水道の水がとまり家の前の川の水が流れていません。外にでてみると、森の木のおじさん達が、住み心地が悪いので、引越ししようとして歩いているのに出会います。水に関するクイズをといて、森の木のおじさん達を引き止めることができるでしょうか。テントの外は雨がザーザー、水の循環のことも実感出来たかもしれません。体操をして、3班にわかれ出発。雨は小止みでした。3)川遊び:・・・ほたる水路のちょっと上流部の小泉川は生き物が一杯。サワカニ取り:・・・雨で外にでていたらしく100匹以上。網でさかなすくい(メダカ、カワエビ)。珍しいトンボ(図鑑で調べると、ミヤマカワトンボ、羽に帯があります)、あつという間に40分経ちました。カニや魚は全部逃がしてあげました。4)すいか、きゅうり:朝一番に地元農家の方にきゅうり70本を届けていただきました。それと3個のスイカを川で冷やしておきました。スイカを思い切り食べました。・・・(写真)キュウリは塩をふってまるかじり、残りはお土産です。当日の探検隊は半分雨の中で、サバイバルモードの一日でした。次回は10月19日(日)どんぐりを集めようです。10月市民広報募集です。 報告 里山再生PJT 加藤



## 第13回子ども夏休み里山工作教室

平成26年8月2日(土)9時~15時30分、場所:こらさ学習室3、参加者:41名[公募参加者29名(子ども16名、保護者13名)、スタッフ10名(山下、河上、大藪、三井、橋本、瀧、林、片岡、藤田、加藤)、見学:2名。毎年木や竹の間伐材の利用促進、山に親しみ山に来てもらうことを狙いに行っており、今年で13年目になります。今年はずまず名札をつくり首にかけてもらいました。次にCDラック、ブックエンド1(木と木)、ブックエンド2(木と竹)、ウェルカムボード、自動車、自由作品から一つ選んでつくってもらいました。低学年が多く動物の顔(ウサギ、カエル、ネズミ)とプラタナス、ドングリをヒノキの板にはりつけるウェルカムボードが一番人気でした。CDラック、ブックエンド、自動車に挑戦した子どもたちも大変出来栄がよく大喜びでした。いつもながら子供たちのつくるものにはびっくりさせられることが多いです。

CDラック:マツカサの他、シャリンバイ、ナンキンハゼ、ドングリ、カラスウリを飾る。ブックエンド:クルミ、ビー玉、ドングリ、プラタナス、ムクロジを飾る。・・(写真添付)、自動車:戦車をつくる。髪の毛をはやした顔が乗っているなど。自由作品で露天風呂のあずまやに挑戦する子もいました。1時間作業したところでティータイム、ジュース、お茶、コーヒー、お菓子で休憩をとりました。お菓子の差し入れありがとうございました。西山キャンプ場でみられる動物、植物の資料を配布しました。主催 長岡京市里山再生市民フォーラム、長岡京市環境の都づくり会議(里山再生プロジェクト)、後援 西山森林整備推進協議会。 報告 里山再生PJT 加藤

ブックエンド



## 第75回 環境教育ミーティング(平成26年度のテーマ:環境と持続可能性)

主催:長岡京市環境の都づくり会議・環境教育プロジェクト/長岡京市立中央公民館

後援:長岡京市 京都府地域力再生活動

## 「竹林の放置 竹への想い 竹検定」

入場無料

日時:平成26年 9月18日(木)夜7~9時

会場:長岡京市立 中央公民館 2階・講座室

講師:鳥居厚志さん

### 講師のプロフィール

○京都府立大学農学部卒

農林水産省入省。林業試験場(森林総合研究所の前身)で森林土壌の研究に従事

○1990年代後半に竹林の分布拡大現象に着目して、その実態を解析。その後も、森林の立地環境研究の傍ら、竹関係の活動を続け現在に至る

○現在:森林総合研究所 関西支所 地域研究監

### お話の内容

京都に限った話ではありませんが、多くの竹林が放置され拡大する現象が顕著です。放置竹林は枯れ程が目立ち景観的に見苦しいだけでなく、周囲の樹林や耕作地に被害をもたらすため有効利用の復活が望まれています。京都竹カフェは、竹の有効利用を進めたいとの思いから同志社大学の藤井教授を中心に2010年に活動を開始した有志のグループです。竹について学ぶ見学会や講演会、竹利用のデモなどを通じて、竹関係者間のネットワークづくりを目指しています。竹検定は「学ぶイベント」の一環ですが、何のノウハウも持ち合わせていないが故の手探り作業で、お粗末な運営体制ではありますが、暖かく応援して頂ければと思います。

協同で実施

—子どもたちと笑顔輝く夏—



ゆりかご保育園 5歳児14名の子どもたちの初めてのお泊り保育を7月19・20日に実施しました。「強くなるぞ!」の合言葉を胸に大人も子どもたちもドキドキ・ワクワクの2日間を保育園内でプログラムを楽しみました。今回は、環境の都づくり会議 メンバーの方々と協同で自然体験プログラムを盛り込み、小泉川での川遊び。廃油を使ってのエコキャンドル作りに挑戦し、自分で作った世界で一つだけのキャンドルに火を灯しキャンドルファイヤーを楽しみました。



小畑川での川遊び

川遊びを心待ちにしていた子どもたちは、自分たちで手作りの魚取り網を用意していました。環境の都づくり会議代表江川さん・渡辺さんが投網(写真左)を披露してくれたことで魚を捕まえたという気持ちはマックス!! に。一人ひとりが網を片手に上下左右に振り回し、おたまじゃくしやアメンボ・魚を追いかけていました。「とったで~!!」「アメンボ早いけど負けへんで~!!」と、感嘆の声が響いていました。川に住む生き物とのふれあいを満喫しました。

エコチームリーダー田原さん・中田さん・江川さんと一緒に廃油にクレヨンで好みの色粉を混ぜてガラス瓶に流し入れ、ビーズやシールでトッピング。

世界に一つだけの素敵なキャンドル(写真左)が出来上がりました。「うわあ~きれい~!!」色の組み合わせも十人十色。個性輝き、素敵なキャンドルは、大切な思い出と共に大切に持ち帰りました。「お母さんの誕生日につけてあげよ…」可愛いつぶやきも聞こえてきましたよ♡



キャンドル作り

キャンドルファイヤー



キャンドルファイヤー

美しい炎の感じながら友達の大切さを実感しました。自分で作ったキャンドルの美しさを見つめながら、仲間とともに落ち着いた時間を過ごしました。

エコチームPJT  
高橋 由紀子

「大山崎町立中央公民館でイベントを行いました」

大山崎町立中央公民館では夏休みの期間に、スペシャルイベントを行っています。エコチームPJTは毎年このイベントに子供たち向けのテーマで参加し、今年は「楽しく遊びながら学べる身近な科学あそび」と題して、使用済みペットボトルを使ったリサイクル工作を行いました。底とキャップ中央に穴をあけたペットボトルに輪ゴムを通してぶら下げ、回転させると「ペットボトルメリーゴーランド」ができます。簡単な構造ですが、カラーテープやいろいろなシールで飾ると、きれいなメリーゴーランドになります。(写真1)



写真1



児童の一人は、「夏休みの工作の宿題に使える」と喜んでいました。ご家族を含め24名の参加があり、LEDの勉強や、自分で環境にやさしい電気を作る体験など「身近な科学遊び」を楽しんでもらいました。

エコチームPJT 田原誠一郎



ビオトープPJT

神足小すくすく教室

7月12日(土)小泉川で神足小のすくすく教室の子供たちの郊外授業を実施しました。台風の終わった後の大変暑い(34度)日となりましたが川の冷たい中ではそんなことも忘れ夢中になって水遊びをしました。参加者・・・子供60名、父兄6名、世話役5名、環境の都6名。写真右:人気のある投網の実技を10名ほどの子供たちにしてもらいました、渡辺さんが投網を投げましたら本当に魚(川むつ)が6匹ほど捕れたのにはびっくりしました。子供たちも大歓声をあげたくらいです。

ビオトープPJT 小根田





## 竹材の有効活用

伏見区内の公営建物の責任者より西日の日除けに竹を使って何か出来ないかと相談されて試行錯誤の上、建物二階のガラス張りの窓枠に孟宗竹を半分に割った高さ3.6m巾8mの巨大な「犬やらい」(写真)を8月上旬に完成させました。同時に東側の引違いの小窓にも竹材で雨戸を作りました。今年の夏は雨が多くまだ効果の評価は得られていませんがきっと省エネに役立つと期待しています。その他竹材は竹チップや竹炭、古竹の焼却で出た「カラ消炭」等は家庭菜園の土壌改良剤として多くの人に利用してもらっています。更に秋には新しい工法として竹チップを燻炭化して消臭剤や湿気取りまた畑の肥料等にも使用出来るように皆なで知恵を出し合って試作品作りに取りかかっています。良品が出来れば来る10月11日の竹あそびイベントで販売して少しでも活動資金になればと期待しながらコツコツ頑張っています。

竹林再生PJT 湯川圭造



犬やらい



犬やらい作り



竹ひしゃく作り

## 竹ひしゃく作り

7月18日(金)9:00~12:00 河合竹林で7月24日のアゼリア・エコクル大作戦に使う、水撒き用ひしゃく作りを行いました。完成品30個が出来てほっとしました。

写真右:竹林の中といえども32度はある蒸し暑い日でした。皆さんもくもくとひしゃく作りをしてくれました。

竹林再生PJT 湯川

### ★★★ 環境の都づくり会議のプロジェクトと連絡先 ★★★

プロジェクト名	内 容	連絡先	T E L
里山再生PJT	里山再生	加藤 克巳	951-0933
環境教育PJT	環境教育	西村 日出男	952-3718 FAXも同じ
		E mail : sun246ra@mbox.kyoto-inet.or.jp	
エコチームPJT	地球温暖化防止	田原 誠一郎	953-1696
ピオトープPJT	ピオトープ	小根田 勝信	957-4081
花を咲かそうPJT	花を咲かそう	湯川 智子	952-5505
竹林再生PJT	竹林再生	湯川 圭造	090-8759-1757
環境の都づくり会議 代表	活動全般	江川 宗治	957-6169 FAXも同じ
		E mail : egawam@kyoto.zaq.ne.jp	

事務所: 多世代交流ふれあいセンター内 (〒617-0812 長岡京市長法寺谷山13-1)

環境の都づくり会議のホームページを作りました。各PJTの活動内容と写真などが有ります。是非ご覧ください。  
アドレス= <http://kankyonomiyako.jimdo.com/>

「環境の都づくり会議」では、さらなる活動の飛躍を期して活動協賛金を募っております。協賛金:一口年間1000円(一口以上) あなたも「長岡京市環境の都づくり会議」に参加してみませんか。どなたでも参加できます。連絡、問い合わせは上記プロジェクトの連絡先へ下さい。

編集後記:今号は各PJTからの報告が多く、限られた紙面に無理やり格納する状態でした。編集は記事が多いほうが助かります。記事をざっと見て「環境」が本来の共通項ですが、それ以外の共通項は「子供」か「遊び」が伺えます。「孫の世代につけを残さぬ」がエコチーム田原さんの活動信念ですが大いに共感します。しかし、その活動は「楽しく無ければ広がりや継続は望め無い」。これからも各PJTは楽しく活動するでしょう。どうぞ御一緒に。